

各府県本部御中

令和2.3年度

全国競吟会審査委員打ち合せ内容

吟道関心流宗家、藤井芳洲
全国選抜競吟会審査委員長、大下宣洲
副委員長 吉村徳洲

令和3年4月吉日



拝啓

春暖の候、先生方に於かれには、お清祥の事とお喜び申し上げます。新型コロナウイルスも最近はや異ウイルスが現れ、従来のウイルスに取って代わりながら感染拡大し第4波に突入したと云われております。

そうしたなか、審査員の皆様にも3月7日(土)13時30分～養気庵道場にて打ち合せを通常でしたら又々同集会を実施するので折りがら1回で済ませたい関係で何かと不恰な事があったかも知れませんが、御理解して頂き御存宜しくお願ひ申し上げます。

敬具

1. 望 大阪城 (絶句六題)

(起句)

(転句)

劫
後
繁
華

この節譜としては、
◎終りを〜突でも〜
真直くても良い。

人

→中音から利上げ(抑上げ)ゆゆうで高音までゆてゆて、最後は平で止める。

2. 歸 家

(承句)

(転句)

早
涼

→中音(ラ)

連
宵
情
話

→連宵は中音(双ト)高音まで上げて最後は中音(ラ)止め。

→情は平から出る。

3. 詠史

(起句)

臥龍

→臥龍は中音記号となっているが、ド、シラヒ入りの中音から節に入る。

4. 客中夜坐

(起句)

落葉

高音で上げる。

(転句)

新雁

最後は中音(ラ)で止める。

(結句)

斷腸

高音から中音とて節に入り、最後は並音とする。

5. 夜雨寄北

(起句)

君問歸期

この節譜は真直く下り。この節譜は中音です。

(転句)

何當

何かと當に走続けるのではなく間を取る。いづれか(レ)の音で當の途中で(ミ)に上げる。

6. 宴城東莊

(注)…詩文の結句、十千(じゆせんが正でじうせんは誤読と判別)

(起句)

一年始有

この節譜は中音(ラ)まで上げること。

7. 香積寺 (律詩三題)

(首聯) 4人

(首聯)

(領聯) 4人

來 〇 → この節譜は、
真直ぐ。

初 〇 → この節譜は
低音のから低
音のへへ行って
ま、秋から並音に
わた行く。

巴 〇 → 中音にて押へて
水 〇 → 中音から高音に
上げて下る並音
にて。

8. 瓢合歌

①... 汝(なんじ)と云う言葉が4回出てくるので、詩の内容も良く
考慮すること。

(頸聯) 4人

汝 〇 } なん ぞ
危 〇 } 汝と危坐するの間を考慮して下る。長たると良くない。
坐 〇 }

9. 黄山

(領聯)

(首聯)

雲 〇 → 雲で高音のドまで行って、
開 〇 → 開きてドで走り、最後
は中音(ラ)で止まる。

幾 〇 → この節譜は、中音でスタートし
高音まで上げて、並音に下
るす。

参考... 教範の中で ① この節譜の枠に上が、たすけの
印がある場合は通常高音の下の音まで上げます。

以上

3月27日、陽気庵にて、審査員打合せ事項の結果

(坂口祥洲) (橋本芳彦) (吉見芳善) (大野冠洲)

大阪城を望む

高橋藍川

劫後の、ゆりの部分

城 樓

転句、人の、ゆりの部分

※平音から伸ばして中音に上げ、平音戻し。
※平音横伸ばし。
どちらも可



※中音 (ラ) からゆりあげて (ド) まで上げて、最後は中音 (フア音域) で次の言葉に受け継ぐ。



歸 家

藤井竹外

承句、早涼の

転句、連宵の 情話



詠 史 変更なし

西郷南洲

客中夜坐

袁凱

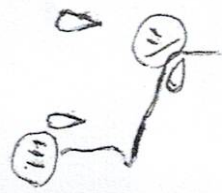
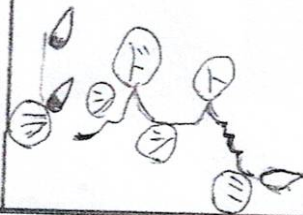
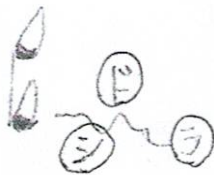
新 雁

三更の

行人か

はらわた 腸を、のゆりの部分

ゆりの最後は、下音までさげてあるが、平音で収める。



夜雨寄北

李

商隱

起句、君、の、ゆりの部分

歸 期を

西 窗の

平音から少し下げたゆりになっている。

平音で伸ばし、押し込んでいく吟法。



宴 城 東 莊

崔

敏 童

起句、春、の、譜の部分

転句、酔わん、の、譜の部分

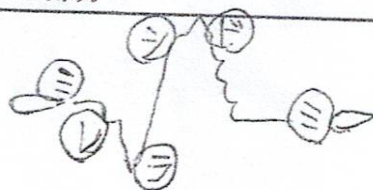
中音の譜を、平音の譜に書き変える

十千の読み方 (じっせんではなく)

じゅっせん

結句、活酒、の、ゆりの部分

平音から下音 (レ) (ラ) までさげ、いっきに中音域 (いちオクターブ) を通り、(シ) (ド) の高音を望み平音までゆり下げる。



香積寺

服部承風

首聯、来尋、

二行目、巴水、の読み

平音横伸ばし



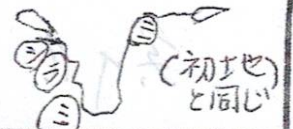
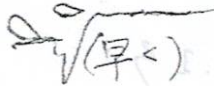
下から読んでも、上からかぶせて読んでも、
どちらでもよい。はすい はすい

初地

楓林

白毫の

澹然として



瓢兮歌

藤田東湖

一行目、天に

二行目、時と、

酒 無くんば

三行目、危坐する



黄

山

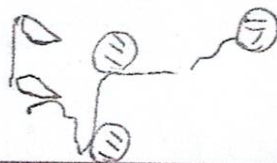
服部承風

曲直

箏に扶けられて

二行目、開きて、

三行目、暗水



※ (宗家のことば) 絶対的に、平音から揺り上げて、平音に戻すゆりに、ゆり上げたところに、高音の譜がつけて有る場合は、すべて高音域まで届くようにとの宗家の話でした。